

事 務 連 絡
令和 6 年 7 月 29 日

各都道府県教育委員会指導事務主管課 各指定都市教育委員会指導事務主管課 各都道府県私立学校事務主管課 附属高等学校（中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む）を置く各国立大学法人附属学校事務担当課 構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の認定を受けた各地方公共団体の学校設置会社事務主管課	御中
--	----

厚生労働省医薬局総務課医薬品副作用被害対策室
文部科学省初等中等教育局教育課程課

令和 6 年度の薬害教育教材「薬害を学ぼう」の配布について

日頃より厚生労働行政に御理解・御協力いただき誠にありがとうございます。

さて、令和 6 年 4 月 5 日付け事務連絡「令和 6 年度の薬害教育教材『薬害を学ぼう』の配布予定について」にて事前にお知らせしたとおり、薬害教育教材や教員用の参考資料を、本年も全国の各高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）及び全国の各中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。以下同じ。）に対し、7 月下旬頃から、高等学校には高校 1 年生人数分程度、中学校には教材紹介のために各校 1 部ずつ順次発送いたします。本教材は、主に高等学校の公民科（公共、政治・経済）や保健体育科、中学校の社会科（公民的分野）の授業等において御活用いただくことを想定しており、特に上記教科の担当教員の皆様への周知について、御協力をお願いいたします。

つきましては、都道府県教育委員会におかれては、所管の高等学校・中学校等及び各学校を設置する域内の市（指定都市除く）町村教育委員会に対し、指定都市教育委員会におかれては、所管の高等学校・中学校等に対し、都道府県私立学校事務主管課及び構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の認定を受けた地方公共団体の学校設置会社事務主管課におかれては、所轄の高等学校・中学校等及び学校を設置する学校法人等に対し、附属学校を置く国公立大学法人附属学校事務主管課におかれては、附属の高等学校・中学校等に対し、令和 6 年度の本教材送付について、周知くださいますようお願いいたします。

その際、学校における働き方改革の観点から、周知の範囲及び方法については、全ての学校への一律周知以外にも、例えば、他案件とまとめた周知の実施や教育委員会主催の教員研修の場での配布等、貴課において必要に応じて御判断いただきますようお願い申し上げます。

また、各高等学校の先生方に、教材の使用手法等に関する任意のアンケートに御協力いただきたいと考えております（アンケート URL：https://www.mhlw.go.jp/form/pub/mhlw01/202406_01yakugai）【締切：令和 6 年 12 月 27 日（金）】。

当該アンケートは先生方の御意見を本教材に反映させる重要な機会となっており、アンケート結果を踏まえて教材の改訂等を行っております。教材を活用されなかった方の御意見も参考にさせていただいております。幅広い地域・校種・教科の先生方の御意見をお寄せいただきたいと存じますので、貴課におかれても、各校に御協力いただけますよう、御周知のほどよろしく申し上げます。

教材の使用手法等に御不明点等がありましたら、メール又は電話にて御連絡ください。

【問い合わせ先】厚生労働省医薬局総務課医薬品副作用被害対策室 担当 大島、鶴池、久保、江口、小関
電話 03-5253-1111（内線 2718、2719）（夜間 03-3595-2400）
メール fukutai01@mhlw.go.jp



特に 高校等の公民科（公共/政治・経済）・保健体育
中学校の社会科（公民的分野）の担当教員の皆さまへ



「薬害教育教材」を活用してみませんか？

実践例も増えています



多様な教材と指導の参考資料
同封しています

令和6年6月改訂
改訂内容は裏面へ



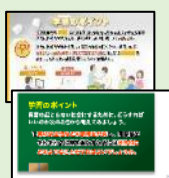
「薬害を学ぼう」

…生徒配布用の教材です
<高校1年生の人数分を同封>



「指導の手引き」

…指導のポイント等を記載した
教諭向け資料です
<1冊同封>



「視聴覚教材」

…動画教材（全体編・パート別）
を無料で公開しています
<DVDを1枚同封>
<厚生労働省YouTubeでも公開>



「実践事例集」

…実際に授業に取り組んだ
実践例をまとめた教諭向け
資料です <1冊同封>

厚生労働省ホームページで各教材の電子媒体・動画のリンク
・関連サイトなどを見ることができます



薬害を学ぼう

検索

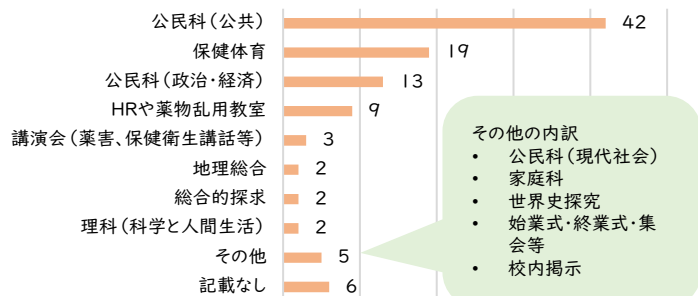
HPもリニューアル



様々な場面で活用可能

公民科（公共/政治・経済）や保健体育を
中心に、様々な場面で活用されています
学校薬剤師の方との連携もおすすめです

<教材を使用・配布した科目>



出典：令和5年度薬害教育教材に関するアンケート調査結果



授業サポートも可能 講師派遣もできます

厚生労働省職員による各種サポートを
受けることができます
モデル授業を実践していただける場合は
「実践事例集」への掲載も可能です

- 教材内容の御不明点等の説明
- 授業実施や授業計画策定に当たる
アドバイス(現地打合せやオンライン)
- 薬害被害者の方の講師派遣 など

詳しくは裏面をご覧ください

教員の皆さまの声がよりよい教材づくりに活かされています



Webアンケートへの回答にご協力ください
教材を使わなかった方の御意見も歓迎です



【回答期限】

令和6年12月27日(金)17時

https://www.mhlw.go.jp/form/pub/mhlw01/202406_01yakugai



令和6年6月の主な改訂内容

より見やすく、より使いやすく！



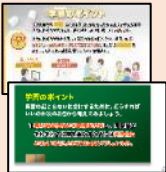
「薬害を学ぼう」

- 各ページに対応する動画のQRコード(二次元バーコード)を追加
- デジタル画面でも見やすいレイアウトに変更
- 改正医薬品医療機器等法で創設された医薬品等行政評価・監視委員会の記載を追加(P6)



「指導の手引き」

- 新たに高校用の【授業の流れ(例)】を追加(中学校用も引き続き掲載)
- 学習指導要領との関係を分かりやすく解説
- 全体を見やすいレイアウトに変更



「視聴覚教材」(動画)

- 医薬品等行政評価・監視委員会についての解説を追加
- ナレーションを再収録



「実践事例集」

- 中学・高校での新たなモデル実践例を追加



モデル授業に挑戦してみませんか？

- 先生方の授業実施の参考となる「実践事例集」を充実するため、モデル授業に挑戦していただける中学校・高校を募集しています
- 厚生労働省職員と打合せしながら、授業計画の策定に向けた支援や講師派遣の調整等の各種サポートをいたします(授業当日の職員の見学や、アンケート回答に御協力ください)
- 教材の追加配送も、ご連絡いただければ対応いたします



【ご相談・ご応募先】厚生労働省医薬局総務課医薬品副作用被害対策室

担当：大島、鵜池、久保、江口、小関

E-mail : fukutai01@mhlw.go.jp 電話番号：03-3595-2400 FAX：03-3501-2052



薬害被害者の方の講師派遣が可能です

- 全国薬害被害者団体連絡協議会(薬被連)において、薬害被害者の方の講師派遣を行っており、出前授業や講話をお願いすることが可能です(以下の宛先にメールでご依頼ください)
- なお、モデル授業にご応募いただき、授業の中で出前授業や講話を実施する場合は、厚生労働省にて薬被連と調整いたしますので、改めて薬被連に依頼する必要はございません

【講師派遣専用アドレス】全国薬害被害者団体連絡協議会



E-mail : yakuhiren.lecturer@gmail.com

先生方からは「被害者の苦しみに対する共感、被害者の受けた偏見・差別と基本的人権の尊重など、様々な観点で生徒の理解が深まった」との声をいただいています

ご応募・ご依頼を心よりお待ちしております

【お詫び】

各学校に発送した教材のうち、「薬害に関する授業実践事例集」につきまして、47 ページ及び 48 ページの印刷漏れが判明いたしました。

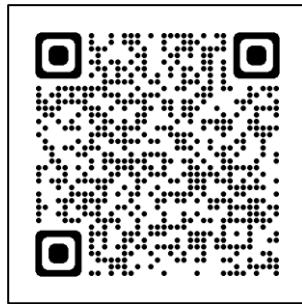
一方で、既に「薬害に関する授業実践事例集」の印刷業務が完了していること、また、各学校への発送のための梱包発送作業が進行していることから、印刷漏れが生じたページを追加印刷した上で各学校に同封してお届けすることが困難な状態となっております。このため、各学校には 47 ページ及び 48 ページが欠損した状態でのお届けとなってしまいます。

つきましては、大変ご迷惑をおかけいたしますが、令和 6 年度の本教材送付についてご周知いただく際、併せてページの一部（別紙）が欠損している旨をご周知いただくことにご協力を賜りたく存じます。

なお、47 ページ及び 48 ページも掲載された電子媒体につきましては、厚生労働省の下記ホームページからもお覧いただくことが可能です。

<厚生労働省ホームページ：薬害を学ぼう>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_yakugaiwomanabou.html



来年度以降の教材の印刷・発送に当たりましては、このようなことのないよう、再発防止を徹底いたします。このたびは大変ご迷惑をおかけすることとなり、心よりお詫び申し上げます。

厚生労働省医薬局総務課医薬品副作用被害対策室

4. 中学生を対象にした社会科以外の教科等での実践例

(5) 京田辺市立 田辺中学校

対象学年	中学校第3学年
教科等	人権学習
学習の目的	<p>○薬害の現状や歴史、取組などを学び、残された課題や防止するために必要なことなどを正しく理解する。</p> <p>○薬害の被害者の方から、直接その体験や望まれていることなどをお聞きし、人権的な観点で薬害を捉え、薬害を被害者の立場に立って理解する。</p> <p>○薬害を繰り返さないために自分たちができることや、自分たちが被害者にならないためにしていかなければならないことについて考える。</p>

授業の流れ

【1時限目】

- 『薬害を学ぼう』の動画を視聴し、薬の副作用と薬害の違いについて学習するとともに、2時限目に行われる「陣痛促進剤に関する講演」に先立ち、穴埋めプリント等を用いて陣痛促進剤による被害について学習する

【2時限目】

- 陣痛促進剤の被害について、「薬害を繰り返さないために～産科医療を例に人権について考えながら～」という演題にて、講演を聴く



【3時限目】

- 薬の副作用をゼロにすることはできないが、医薬品を使用する生徒自身が、薬害の被害者になることをできる限り防ぎ、「薬害を繰り返さない」ためにはどうしたらよいかについて、2時限目の講演を踏まえ、感想をまとめる

授業を受けた生徒の感想（一部）

- 「薬物乱用」などの悪い薬物についてのことしか学んだことがなかったので、「薬害」という言葉自体が初めて聞くものでした。今回の授業を通して、病院から出される薬であっても、体に悪影響を及ぼすこともあること、情報の隠蔽や自分の価値だけを考えてしまった「人」の背景から薬害が引き起こされていたことをとてもよく知ることができました。
- 薬自体が悪いのではなくてその薬のことを理解せずに使った人の責任であると改めて思いました。情報を公開しなかったことで、救えるはずの命が失われたことは本当に残念なことだと思いました。この先、このようなことがおこらないために、おこさないために、「薬」というものについて多くの人が理解できる情報を広めることが必要だと思いました。